

定例活動／7月24日(日) 「万博ささしまサテライトブース出展」

村田 英二

7月定例会は環境デーなごや2005中央行事への出展として、朝から夕方までの一日、名古屋駅南の「ささしまサテライト会場」でパネル展示と竹細工と炭の販売をしました。

参加者は森さん、跡見さん、大館さん、永田さん、真弓さん、伊藤さんご夫婦と私の合計8名。

出展ブースの壁にオアシスの森くらぶの活動をまとめたパネルを展示しましたが、今回のイベントは子供さんが中心のせい、注目度は低かったようです。

竹細工はすべて森さんがこの日のために用意したもので、クワガタ、カブトムシ、セミ、竹とんぼに竹笛です。

森さんの竹細工はなかなかの出来栄でクワガタ、カブトムシは子供たちに大人気。竹とんぼは子供よりお父さんのほうが嬉しそうでした。また炭も予め森さん自作の竹製の筒に入れてラップをしたものです。お化粧をすると中は同じものでも商品価値は随分上がり



▲子どもたちに大人気だった竹細工の昆虫たち



▲出展ブースでの展示・販売のようす

がります。

売り上げは午前中から順調に売れ始め、午後からは客足が伸びたこともあって、用意した物品を完売することができました。

私自身いざ売り始めると店員になりきり1日があっという間に過ぎ、楽しい1日を過ごすことができました。

今後も同様の企画でくらぶをアピールする機会があればよいと思いました。

Topics 「まつり天白2005」に参加

大館 学

例年、秋に行われている天白区民まつりですが、今年は愛知万博に協賛して行われることとなり、6月12日(日)に天白公園を会場に開催されました。

オアシスの森くらぶも「天白・もりのフォーラム」の一員としてこの祭りに参加。

パネル展示やニュースレター、リー

フレットの配布など広報活動を行ったほか、ヒノキの間伐材を使った丸太切りや焼印体験コーナーで子どもたちと楽しい一日を過ごしました。

火災で火の入った間伐材はとても硬く、子どもたちはふーふー言いながらのこぎりを挽いていました。

▶懸命に丸太と格闘する子どもたち



シリーズ『森の住人たち』⑫

～モズ(百舌)～

秋を告げる鳥

モズ科

全長 20cm

環境 平地から山地の開けた環境



「キー、キー、キー、チキチキチキ」静けさを破る高い声の方向を見ると、枯れ枝や電線にとまって尾羽をくるくる回すモズの姿が観察できる。「モズの高鳴き」といわれる縄張り宣言である。初秋の風物詩に「秋がくる」そう思うと、夏の暑さに堪えて弱りきった体に、力がみなぎってくる。和名のモズは、「百舌」と表記する。うそをつく人のことを「二枚舌を使う」というが、モズは百枚の舌があるという。つまりモズは鳴き真似上手。例をあげるならば、メジロ・ウグイス・コジュケイなど30種近い鳴き真似が記録されているというのであるから、驚異である。

なぜ他の鳥の鳴き真似を・・・、という疑問がわく。他の鳥を縄張りから追い出すためとも、他の鳥をおびき寄せて襲うため、

ともいわれている。

モズの生態については、疑問がもうひとつある。くちばしは太く、やや下に曲がったかぎ型で昆虫・カエル・カニなどには及ばず小鳥までも襲う。それらのものを捕まえながらも、食べずに樹木のトゲや、有刺鉄線などに突き刺す。これは、「モズのはやにえ」といわれる習性である。厳しい冬に備えるための保存食ともいわれる。しかし長い間野ざらしになりそのまま朽ちていくものもあるため、縄張りの目印という説、単に食べかけという説も見逃せない。

これからの季節、森を散歩するとき気をつけて観察してみよう。きっと、「モズのはやにえ」を多数サンプリングすることができるだろう。

(文責 自然案内人 近藤 記巳子)